

第5章 地域の行動

第1節 環境市民会議の取組

地域の環境を保全し、回復させるには、市の環境施策を推進するとともに、市民・事業者の自発的な環境保全活動が不可欠となってきます。

ここでは、環境市民会議が各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の活動や取組を報告します。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、「知る、考える、行動する」きっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

市内を6つの地区に分け、その地区の環境が良くなるよう自ら活動する団体です。市内在住・在勤・在学の方であればどなたでも参加できます。

環境保全の取組は、一人ひとりの行動が最も重要ですが、その地区の取組の推進力となるのが環境市民会議です。地区内の町会・自治会や事業者、あるいは各種団体との連携を図りながら活動しています。

環境基本計画では、地区ごとにめざす環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理し、その解決に向けた主な取組などを「地域の行動」として示しています。

この地域の行動は、環境市民会議によって策定されたものです。

6地区の位置図



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

中央地区は、6地区の中で最も緑比率が低い地区ですが、会員の専門性を活かして多様な活動を実施しています。

浅川のごみは少しずつ減少していますが、川口川・橋の周辺・目の届かない所の投棄ごみやペットの糞の放置が目立ちます。アメリカザリガニ等の外来種対策も継続していく必要があります。

歴史ある地域・湧水を守り、自然災害に対する先達の知恵等をまちなかウォッチングで知ってもらい、工夫しながら次世代に繋げていきたいと思えます。

■ 中央地区の主な取組

1 地球温暖化防止のための省エネ生活の推進

みどりのカーテン普及のため、ゴーヤの苗を400個育て、環境フェスティバルで配布しました。

また、出前講座として、公民館・学童保育・サロンなどで、写真や紙芝居・クイズなどで地球温暖化防止の大切さについて楽しく学べる講座を17回開催し、地球温暖化防止やゼロカーボンシティ宣言を市民に理解してもらうための取組を行いました。児童をはじめ若い世代の関心が高いため、今後も継続していきます。

地球温暖化防止活動推進員として家庭グループの打ち合わせを5回開催し、延べ48名が参加しました。

2 ごみの分別徹底とリサイクルの推進

中野七夕まつり・台町市民センターまつり・子安市民センターまつり・いちよう祭りに参加し、海洋プラスチック問題の対策として、クイズを交えてプラスチックを使わない生活への転換を市民にアピールしました。

3 河川の清掃活動

5月に中野橋近辺で清掃活動を実施し、11名が参加しました。また、9月に浅川橋近辺で清掃活動を実施し、10名が参加しました。合計で、可燃ごみ17袋、不燃ごみ1袋を回収しました。

自然環境保全プロジェクトでは、河川内のポイ捨てごみ回収を6回実施し、延べ9名が参加しました。可燃ごみ11袋、不燃ごみ7袋、アルミ型材、車のランプ、塩化ビニール管などを回収しました。レジ袋のごみが圧倒的に多い状況です。



ゴーヤの苗作り



学童保育での出前講座



いちよう祭りでの活動

4 河川の巡回観察・調査活動の推進

河川巡回・課題別巡回を29回実施し、延べ36名が参加しました（浅川12回、南浅川7回、山田川5回、川口川5回）。川口川のポイ捨てごみの多さは、大きな問題です。

河川調査は、身近な水環境の全国一斉調査、水生生物調査、水質・水生生物調査、湧水集水溜り調査を全17回実施し、33名が参加しました。国内外来種・外来種対策や生物多様性の保全は、今後も重要な課題です。



清掃活動

5 環境教育・環境学習などの推進

エコひろばの環境教育支援事業「川の学習」では、地区内小学校5校（第四小学校、第五小学校、第九小学校、第十小学校、大和田小学校）と地区外小学校2校（七国小学校2回、柏木小学校）に対して、合計8回支援し、延べ43名が参加しました。他にも市民講座「川の探検隊」を2回支援し、3名が参加しました。

八王子浅川水辺の楽校運営協議会主催の「ウグイの放流」、「ガサガサ探検隊」に、延べ10名が参加しました。

川の学習サポーター養成講座には、実行委員会を含めて6回支援し、延べ10名が参加しました。



ごみの運搬状況

6 まちのみどりの保全

第四小学校の校庭にある主な樹木に名札付けを行ったほか、花植え活動の支援も実施しました。

また、環境グリーンマップに最新の状況を調査した結果を反映しました。



湧水集水溜り調査

7 大気汚染測定

大気汚染測定運動東京連絡会主催の全都一斉測定運動に参加し、6月と12月に二酸化窒素濃度の定点調査を実施しました。居住区域3か所の測定結果が、環境基準以下で安定していることを確認しました。



第十小学校川の学習

■ 特色のある取組

自然体験講座として、まちなかの歴史と自然を紹介する「まちなかウォッチング」を5月と2月に開催し、合計で35名が参加しました。



まちなかウォッチングの様子

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

地区の東エリアは住宅地が広がっており、中には保存緑地として昔からの緑が保存されている箇所も見られます。西エリアは南・北加住丘陵に代表される豊かな緑が残っていますが、手入れが行われていない樹林地も存在しています。地区の中央には谷地川が流れ、上流では昔からの自然護岸が残っています。上流での水質・水量を改善していく必要があります。

また、中央エリアは国道16号・20号、16号バイパス、新滝山街道のほか、中央自動車道八王子ICも近く、交通の要衝となっています。このことから、大気汚染の状況にも注視しています。近年は、濃度が減少傾向にありますが、16号バイパスの一部でまだ数値が高い地点が見られます。

その他にも、人目に付きにくい場所へのごみの不法投棄対策や環境保全意識の啓発、地区の貴重な自然・文化・歴史を知る機会の提供など、さまざまな分野でツールを活用した対応を行っていく必要があります。

■ 北部地区の主な取組

1 谷地川の調査と清掃活動

市の川の清掃デーと合わせて、地元自治会と協働して町内の環境パトロールと清掃活動を行いました。手入れが十分に行われていない部分では、オオキンケイギクなどの外来生物が繁殖域を拡大しているのが見受けられます。



清掃活動

2 緑地保全活動

地区内の環境活動団体と協働して都の緑地保全地域(4か所)、市の緑地(3か所)等の保全・整備活動を実施しました。感染症対策や暑さ対策のため活動回数を制限しましたが、充実した活動を心がけました。

また、令和3年度冬季に行った大谷緑地保全地域での二巡目となる皆伐・萌芽更新のゾーンで、若い樹木の芽が育つように、草刈りや実生の苗木の保護活動を行いました。



実生の保護(目印となる竹杭の設置)

3 環境教育・環境学習などの推進

宇津木台小学校の児童に、多摩川で自然を学ぶ授業の支援を行い、実施後に環境学習活動をまとめたパネルを作成しました。

また、市内の他団体と協働して、大和田小学校、第八小学校を対象に、里山林の意義と活用の仕方を学ぶ活動を実施し、楽しみながら自然を体験し学ぶ場を提供しました。



グリーンキャンパスプログラム

東京グリーンキャンパスプログラムに参加し、東京都立大学の学生を対象に、緑地保全の基本や保全活動の多様性を紹介しました。また、東京グリーンシップアクションでは、緑地保全の体験を通して、環境問題や緑の保全の重要性を理解してもらうプログラムを実施しました。

4 大気汚染測定

都内一斉調査日に、地区内の幹線道路、その他の道路、道路に面さない場所等を対象に、二酸化窒素濃度の定点調査を年2回（6月、12月）実施しています。担当者10名で、45地点（うち17地点は平成16年環境市民会議発足当初から継続して測定）を測定しました。各調査地点の濃度はおおむね減少傾向にありますが、幹線道路沿いでは高い数値が観測されているため、今後も定点測定を継続していきます。



大気汚染測定の様子

5 地域との協働活動の推進

環境市民会議を知ってもらうため、石川・加住市民センターで市民会議活動パネル展示と入会勧誘を行いました。

環境フェスティバルでは、活動内容の紹介パネル展示、花苗の配布、谷地川の生物展示、身近な道端の花を使った押し花のしおり作成・配布などを行いました。また、駆除を呼び掛けている生態系被害防止外来種の「アメリカオニアザミ」を展示し、身の周りに危険な存在があることを知らせて、駆除の必要性を理解していただきました。



市民センターでのパネル展示



谷地川の生物捕獲

■ 特色のある取組

(1) 自然体験講座

秋季に滝山城跡の自然と歴史を紹介する講座を、春季に滝山自然公園と高月の田園を散策する講座を開催しました。

(2) 活動の発信

広く活動内容を知ってもらうため、動画の配信を行いました。また、動画の二次元コードを印刷したカードを作成し、配布しました。パンフレットだけではなく、動画により手軽かつ効果的に理解の促進を図りました。今後も、デジタルツールを活用した取組を推進していく必要があると考えています。



自然体験講座（高月田園散歩）

活動の紹介	アメリカオニアザミの 駆除	自然体験講座



高月の浄水場で見られた渡り鳥

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

西部地区は、西側から市街地に向かっていくつかの丘陵と北浅川や川口川が流れ、今熊山、金剛ノ滝、天合峰があり自然に恵まれた地域と言えます。これらの自然を守るため、大気汚染測定、川の水質調査、里山保全活動を行った結果、さまざまな生物が戻りつつあります。

当地区では「八王子市みどりの基本計画」に則り、八王子市景観100選に選ばれた「上川の里特別緑地保全地区」を環境教育の場として活用し、学習資料も兼ねたマップ作成も進めています。この里山は、四季折々の花が楽しめ、6月にはホタルが飛び交い、秋には棚田が黄金に輝き癒やされる場所です。

■ 西部地区の主な取組

1 稲作体験授業支援

棚田がある上川の里では、上川口小学校が食育や地域に根ざした教育の一環として位置づけている稲作体験授業を支援しています。支援は令和4年度で6年目になります。PTAやNPOなどと協力し、代かき、田植え、稲刈り、ハザかけ、脱穀、精米を経て、学校給食として活用されています。



稲作体験授業支援

2 親子里山探検隊 i n 上川の里

年2回、春と夏に開催される親子里山探検隊は、毎年応募者が多く人気の講座です。

春にはシュンラン、キンランを始め、ツルアリドオシやウグイスカグラなど多くの植物が観察できます。両生類では、春一番にヤマアカガエル、ニホンアカガエルがビオトープ（命が生まれる場所）に産卵し始めます。

初夏にはホタルが飛び始めます。



親子里山体験 i n 上川の里

3 環境フェスティバル

SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」をテーマに、生物多様性に関連した写真をパネルで展示しました。森をはぐくむキノコの写真や、生態系内での食べる側と食べられる側の動物の、食物連鎖などの写真を展示しました。



環境フェスティバル

4 河川・湧水の水質調査

川の水質調査は、毎年6月に行われる水環境の全国一斉調査を含む年2回、13地点で測定しており、令和4年度も継続しました。また、湧水の調査は8月に行いました。

5 大気汚染測定

高尾街道、陣馬街道の主要道路付近を中心とした地点で、年2回大気測定を行いました。なお、測定値は基準値内に収まっており、おおむね安定しています。

6 環境教育支援事業の実施

小学校の総合学習の一部として行われる、八王子の自然を体験する「川の学習」と「みどりの学習」を支援しています。

「川の学習」では、体験学習6校と、魚・水生生物・植物・石や鳥といった、児童が興味を持ったテーマに特化して学習する課題別学習を2校で実施しました。

「みどりの学習」では、上川の里で、生物多様性を学ぶ座学や、生物や植物の調査を行いました。



みどりの学習

7 自然体験講座

地区内の自然、史跡を巡る講座を5月と11月に行いました。草花や紅葉を楽しみ、湧水地なども探索しました。

8 公園アドプト制度

令和2年度から公園課の公園アドプト制度に登録し、草が繁茂する時期、枯葉の落ちる時期など適時にありがたい公園の清掃活動に取り組んでいます。



自然体験講座

9 川のクリーン活動

大沢川と城山川のクリーン活動を年2回行いました。川の景観の維持のため、継続して取り組んでいきます。

■ 特色のある取組

式分方小学校の4年生を対象に行われる環境教育において、生ごみの減量や、たい肥として生ごみを再利用することなどを通じて、ごみ減量の意識を向上させるための学習支援を行っています。

ダンボールコンポストを活用したたい肥作りを行い、児童の作業後にメンテナンスを担当しました。式分方小学校支援は10年目となりました。作られたたい肥は、学校での野菜作りや花壇作りに活用されています。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山は年間300万人が訪れる、豊かな自然や史跡などの宝庫です。当地区では、自然観察や環境パトロールを行い、植生・生きもの・景観・周辺の案内板などの変化を記録するとともに、保全関係者と情報交換の機会を作り、意義のある調査活動をめざしています。

湯殿川では、水辺環境の改善によって多様な水生生物が見られるようになり、蛍の生息域は年々広がっています。しかし、粗大ごみやプラスチックごみが多いため、地域と協力して川の清掃に取り組んでいます。一方、南浅川では、近隣の町会と協働で川床のごみ拾いなどを行い、水辺環境の改善に努めています。また、古道橋付近での生きもの調査を行い、生態系の変化を定期的に記録しています。

■ 西南部地区の主な取組

1 高尾山の環境保全活動

高尾山の多様な動植物や固有の生態系の変化を記録するため、観察やパトロールを4回実施しました。高尾山レンジャーと連携し、情報共有しました。

令和3年度に引き続き、高尾サポートレンジャーと協働で小仏川の野草園付近の遊歩道の整備を行いました。また、以前から提案していた、高尾山への観光客の一極集中を緩和させるための案内板設置については、関係団体や行政の協力のもと取組を進めています。

2 地域の宝の掘り起し

自然体験講座「めじろ台周辺の歴史と文化の探索」を10月に開催し、18名が参加しました。めじろ台駅をスタートし、万葉公園、高幸神社・真覚寺、旧御陵線駅・橋跡、横山事務所、甲州街道・長安寺、広園寺（都重要文化財）など南北方向を巡り、建造物・史跡の歴史、その由来や文化的価値などを説明しました。



自然体験講座（広園寺）

3 里山の保全活動

9月に自然体験講座「里山探検隊」を館町緑地保全地域で開催しました。子どもを含む15名が参加しました。

3月に自然体験講座「早春の野草（スプリングエフェメラル）観察会」を小仏川遊歩道で開催し、21名が参加しました。



自然体験講座（里山探検隊）

4 親しみのある水辺環境の構築

(1) 河川の水質調査（全国一斉調査）

6月に当地区の一級河川及びその支流21か所の水質測定を実施しました。CODの平均値は0.3となり、川の水量もあり濁りもなく良い結果でした。

(2) 湯殿川・南浅川の清掃活動

5月に湯殿川の「みんなの町の清掃デー」に13名が参加し、可燃・不燃ごみ7袋と粗大ごみを収集しました。また、2月に近隣4町会（原、原宿、新地、長房）と協力して南浅川の清掃活動を実施しました。

(3) 湯殿川・南浅川の水辺環境調査

湯殿川の上流端～白旗橋まで約1か月間蛍の飛翔調査をしました。調査区間全域に出現し、6月10日頃までがピークとなりました。観賞者も多く訪れるようになりました。

南浅川では古道橋～五月橋間の瀬切れの発生状況を1年間観察し記録した結果、瀬切れの範囲や期間は令和3年度より拡がりました。

(4) 南浅川の生きもの調査

南浅川古道橋において市と協働で川の生きもの採取を行い、環境の変化と生きものへの影響について調査しました。



南浅川の生きもの調査

5 生活環境保全

(1) 大気汚染NO₂調査

6月と12月に観測点25か所を6名で計測しました。6月測定値は0.017ppm、12月は0.016ppmと年2回の測定差が小さく、0.021ppm超は3か所でした。

(2) 不法投棄パトロール

3月に殿入中央公園周辺（公園内、埋立地、峠奥）で実施し、9名が参加しました。埋立地では、不法投棄の大型ごみ（タイヤ、ホイールリム、液晶テレビ）を発見しました。

館クリーンセンターが開設する令和4年度にはパトロールを終える予定でしたが、1年延長して取り組むこととしました。

6 環境教育支援

川の学習支援校は、緑が丘小、栢田小、横山第一小、横山第二小、長房小、東浅川小、浅川小、みどりの学習支援校は第四中で、合計で8校に13回支援を行い、支援者延べ78名が参加しました。第四中学校1年生によるみどりの学習では、当地区として初めて、「高尾山の魅力に触れよう」(SDGs)を目的とした校外学習の事前学習支援を実施しました。



川の学習（湯殿川）

7 地域の環境活動との連携

いちよう祭りではクリーンな祭りを実現するため、いちよう祭り実行委員として当地区も参画しており、高校生を中心とした学生へのごみ分別の講座を開くなどの啓発活動を積極的に行っています。令和4年度の8か所の集積所は、国際ボランティア学生協会（IVUSA）と対応しました。



いちよう祭り

■ 特色のある取組

9月と2月に施設見学会を実施しました。9月は、東京都薬用植物園で薬草の歴史や大麻取締法の講義を受け、講師の案内で園内を見学しました。2月は、館クリーンセンターのリニューアルされた可燃ごみの焼却施設や、屋外に作られたビオトープ等を見学しました。

11月は浅川市民センターの「秋の文化展」にパネル展示を行い、環境市民会議の啓発活動を行いました。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

数年前から発生し始めたナラ枯れの被害が広範囲に及んでいます。宇津貫緑地や片倉城跡公園でも被害があり、被害木は伐採する対応が取られています。しかし、伐採木は運び出すこともできず、放置されているため、景観上も良くはなく、みどりの減少とともに深刻な問題です。

令和4年度の河川の状況は、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点で行った水質調査によると、COD値は1か所を除き、2mg/Lを示しています。しかし、橋の下や河川に降りられる場所ではごみのポイ捨てが多いため、子どもたちが描いた啓発用ポスターを掲示しました。プラスチックのごみが多いことも懸念されます。

大気汚染調査は年2回、地区内9か所を継続して行っています。国道16号バイパスは交通量が多いため、今後も大気の状態を注視していく必要があります。

■ 東南部地区の主な取組

1 駅周辺のきれいさ評価や清掃活動

毎月第4月曜日に、北野駅周辺と湯殿川(下田橋)の清掃を行いました。駅周辺のごみは減少しつつありますが、下田橋周辺や国道16号バイパスと交差する橋の下辺りはごみのポイ捨てが多くみられるため、より一層のマナーの向上が求められます。また、10月には兵衛川みなみ野大橋下の清掃を行いました。

9月と3月の年2回、JR片倉駅・八王子みなみ野駅・長沼駅・北野駅・京王片倉駅・山田駅の周辺を清掃し、ごみの種類と数を集計するきれいさ評価を行いました。ごみの数は減少傾向ですが、新型コロナウイルスの影響で、マスクやケータリング容器等のプラスチックが目立ちました。

また、11月には市、JT(日本たばこ産業(株))と連携して「喫煙マナーアップキャンペーン」を行いました。喫煙場所が少なくなった影響か、たばこの吸い殻は増加傾向にあります。

公園アドプト制度を活用し、毎月第2土曜日に大塚山公園の清掃を行いました。大塚山公園は多摩丘陵の最高地点にあります。絹の道に隣接しており、地域住民のラジオ体操の場や散策コースとしても活用されています。

2 河川の水質調査と大気汚染調査

6月の全国一斉水質調査で、浅川、湯殿川、兵衛川、山田川、寺田川の14地点の調査を行いました。COD値は1か所を除き2mg/Lで、数年安定しています。河川周辺ではごみのポイ捨てが多くみられました。清掃活動とともに啓発活動を行う必要があります。

大気汚染調査は年2回、6月と12月に9か所で行いました。

3 自然エネルギーや節電・省エネの出前講座

8月に、クールセンター八王子と共催でソーラークッキングを実施しました。夏休み恒例の親子講座です。太陽光を集める装置を工作し、どれくらいのエネルギーができるか実験しました。天候

と時間の影響で温度の上昇が確認できた程度でしたが、時間をかければ調理も可能です。災害や節電などで電気が使用できない状況でも使用できる身近な自然エネルギーの力を伝えることができました。

4 川の学習・みどりの学習の環境学習の支援

6月～7月にかけて、由井第二小学校、由井第三小学校、七国小学校の川の学習の支援を行いました。由井第二小学校の兵衛川での学習は初めての試みでしたが、学校の裏手にある兵衛川で、身近な川の学習ができました。由井第三小学校と、初めて実施する七国小学校は湯殿川の舟橋の下で行い、子どもたちは川に魚が多い事に驚いていました。

12月には、七国小学校5年生がみどりの学習として、宇津貫緑地で落ち葉掃きの体験をしました。宇津貫みどりの会と協力し、雑木林の成り立ちや落ち葉がたい肥になることを伝えました。

5 地域の自然・自然体験講座と勉強会

自然体験講座は、春と秋の年2回、片倉城跡公園～つどいの森公園～みなみ野丘公園までを花を求めて巡りました。令和4年度に作成した花巡りのパンフレットを基に説明しました。参加者にも好評で、地域にこのようなフィールドがあり、身近な自然を体験することができました。

2月には、八王子・日野カワセミ会の協力の下、「湯殿川探鳥会」を開催し、片倉城跡公園から湯殿川の窯土橋まで往復、野鳥観察をしました。湯殿川はフェンスに囲まれているためか、鳥が安心して生息できるように、30種以上の野鳥を確認できました。

12月には、勉強会として館クリーンセンターの見学をしました。最新のごみ処理施設だけではなく、ゲーム式でごみ分別ゲームが体験できるなど、子供から大人まで楽しく学べる場所になっており、地域の拠点としての役割も兼ね添えた施設ということ学びました。



自然体験講座

■ 特色のある取組

宇津貫緑地の竹林の整備を継続して行っています。令和4年度は、6月に新竹の整備を行い、1月に古竹の伐採を中心に整備を行いました。当初は周りの草刈りから始まり、竹林の中に入れないほど荒れていましたが、整備を始めて約3年が経ち、竹林として健全な状態になりつつあります。竹林は手を入れなければ元の状態へと移行してしまいます。竹林整備の横断幕を設置して、周辺を通る市民への啓発活動も行っています。

竹林を整備するだけでなく、竹林を活かすために竹の効用や竹細工を伝えていくことを、これからも継続して行います。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部（旧由木村）地区の北側は多摩丘陵が東西に走り、南側は多摩ニュータウンとして、それぞれにみどりの景観が形成されています。昭和57年に「南陽台の自然を守る会（現：多摩丘陵の自然を守る会）」が発足して以来、およそ40年に渡り、多くの住民の努力によって、多摩ニュータウン・由木の里山保全活動が続けられてきました。清浄な空気や水の供給源である、みどり連なる多摩丘陵の里山を維持することで、人の生活と多様な生き物の生活環境を守ることができます。環境省が指定する重要里地里山500のうち2か所が当地区にあり（都内では8か所）、別所にある長池公園（面積9.8ha）、堀之内にある堀之内寺沢里山公園（面積5.2ha）が整備されています。

また、同じく堀之内にある宮嶽谷戸は、都から市に管理が移管されたことに伴い設置された宮嶽池検討会（当会より委員を2名選出）で、保全の計画案作りに参加しています。

里山農業クラブ・八王子由木メカイの会を中心に活動してきたメカイ作りが令和5年3月に都の無形文化財に指定され、大きな励みとなりました。

■ 東部地区の主な取組

1 里山保全活動の推進

当地区では、長池公園や堀之内里山保全地域などで、里山・谷戸の保全活動を実施しています。

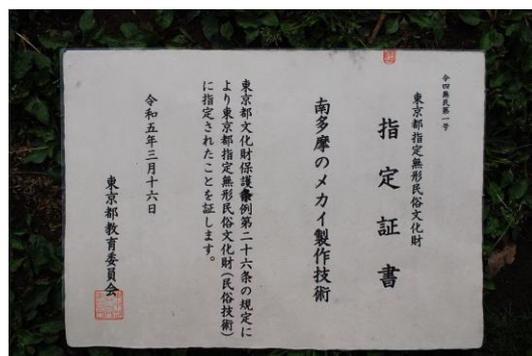
長池公園では、長池里山クラブが主体となり毎月第2土曜日を中心に月例行事を実施しており、当地区も協力しました。主な活動は、炭焼き（4月）、田植え（6月）、稲刈り（10月）、収穫祭での餅つき（12月）、正月のどんど焼き、炭焼き（2月）、椎茸、ナメコの駒打ちです。さらに、民間企業の環境活動の一環である植樹の取組を、継続的に支援しています。

堀之内里山保全地域では、里山農業クラブ・ユギ里山保全チーム・多摩丘陵の自然を守る会で構成される堀之内里山管理協議会が、耕作が放棄されて荒廃した谷戸源頭部の、アズマネザサやアオナリヒラタケの伐採を行い、里山の保全整備を推進しています。里山農業クラブによる第22回「田んぼの学校」に、年間を通して協力しました。

また、自然体験講座を開催しており、令和4年度は10月に寺沢・堀之内において、多摩丘陵の自然を知ってもらうため、樹木や草花を学習しながら歩く自然観察会を開催しました。

2 花壇の維持・管理

当地区では、南大沢駅前のペDESTリアンデッキに設置された大型花壇22基の維持・管理を支援しています。これは、市のアドプト制度を活用したボランティア活動として、南大沢みどりのサポーターの会が毎月実施しているものです。令和4年度は、毎月2回の定例活動に加え、6月に夏苗の植付け、7月中旬から8月にかけては夏の水やりを実施しました。その他、花の植替えや苗の



南多摩のメカイ製作技術の無形文化財認定証

手入れ作業も計画通り実施しました。

3 環境教育支援事業の推進

例年行っている川の学習については、地区内の3小学校で6月から10月に実施しました。また、秋葉台小学校5年生の田んぼの学習を5月から11月に全5回、長池公園の田んぼで実施しました。カイコ・シルクに関する学習も2校で10月から11月に支援しました。



植林活動

4 大気汚染測定と水質調査

大気汚染測定と河川の水質調査を実施しています。

大気汚染測定については、毎年6月と12月に大気汚染測定運動東京連絡会が主催する全都一斉測定に参加し、令和4年度は6か所の居住区域で実施しました。

水質調査については、6月の「水環境の全国一斉調査」に参加し、大栗川・大田川などの計9か所で河川の水質(COD)を調査しました。橋の上などから採水する際は、自作の表層水採水具を使用し、水深の浅い箇所でも底泥が混入することなく採水することができました。

新たな取組として、大腸菌の定点測定を大栗川等の数か所で実施しました。

5 豊かな自然環境への市民の親しみ向上

西緑地科学クラブとの共催でイベントを開催しました。長池公園自然館では、7月に里山の池の小さな生物観察、8月に初音笛作り、11月に竹とんぼづくりを、生涯学習センター南大沢では、3月に由木の植物をテーマに講座を開催し、市民が里山の豊かさへの関心をもつ機会を提供しました。

また、これまでに刊行した由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップに加え、写真絵葉書5種(クチナシグサ、フデリンドウ)に加え、クリア・ファイル(ルリビタキ)を作成し、各種イベント等で配布しました。

■ 特色のある取組

当地区のウェブサイトを開設し、由木地区自然観察路マップ・樹木マップ・みどりの道マップのほか、由木地区里山の植物誌や、日頃の活動の成果を掲載しているほか、市民活動支援センターが運営する「はちコミねっと」にも当地区の情報を掲載しています。

また、定例会では学習会を開催しました。4月に「宮嶽池の整備計画案について」、5月に「由木の里地里山に生きるカエル」、6月に「地球温暖化防止のために建築物の断熱性向上義務化、木造建造物の奨励の法改正」、9月に『第2次八王子市環境基本計画』進捗状況と今後の方向性、10月に「大栗川における糞便性大腸菌群数と大腸菌数の調査結果」、11月に「伝統的な谷戸管理手法により育まれた多摩の水辺」、2月に「由木の野鳥」、3月に「環境市民会議のタスクの再定義」をテーマに行い、環境問題の情報共有に役立てました。

地域の行動評価一覧

令和4年度における環境市民会議各地区の活動実績に基づき、地区の活動実績をその地区で総括的に評価したものと、その評価に対する環境推進会議での意見を掲載しています。

<中央地区環境市民会議での総括評価>

自然の脅威に対し、東京たま未来メッセの開館等の変化が激しい駅前と一方で何百年も変わらぬ神社仏閣等を有する地域と共にまちづくりを行ってきたことを市民に知ってもらう取組の一役ができた。浅川・湧水等を大切にし住み良いまち・住みやすいまち・長く住みたいまち・自慢できるまちになるような取組を継続してできている。

<環境推進会議の意見>

みどりのカーテンの普及推進のためのゴーヤ作りや、地球温暖化防止活動推進員としての活動など、地球温暖化防止のための活動を展開している。市民センターまつりなどで設置する環境コーナーでのクイズなどを通じて、ごみの分別の啓発や生ごみのたい肥化などを推進している。河川の巡回観察や調査、環境グリーンマップの調査・見直しなど、継続的に着実な活動を行っている。また、その活動をSNSで発信しており、引き続き意欲的に活動を行ってほしい。

<北部地区環境市民会議での総括評価>

会員の高齢化が徐々に進み、参加できる人員の減少もあり、さらにコロナ禍での活動が制限される中、ほぼ例年に近い活動ができた。年度末に至って、永年経験を積まれてきた会員が退会されるなど人員減少を受け、会議体運営において継承が途切れることが懸念される。

<環境推進会議の意見>

地域の団体と協働した緑地保全活動を継続的に行い、市の魅力であるみどりの啓発を目的に、小学生への環境学習を実施している。企業や学生の緑地保全活動の支援などを積極的に行っている。また動画により活動内容を広く発信している。今後も地域の環境保全活動を行うとともに、さらに地域の魅力あるみどりを市民へ発信してほしい。

<西部地区環境市民会議での総括評価>

年間の取組項目はおおむね実施することができた。教育支援については、当地区は学校数が多いが先生、保護者のご協力により無事実施することができた。

<環境推進会議の意見>

町会・自治会と連携して行う川のクリーン活動は、地域への取組として素晴らしい。長年にわたり実施しているダンボールコンポストを活用した環境教育支援は、児童のごみ減量の意識を向上させるとても良い取組であると高く評価できる。市が保全を進めている里山である「上川の里」を活用して、稲作体験や親子里山体験などの体験活動とともに、保全活動にも取り組んでいる。今後も「上川の里」の活用を進めてほしい。

<西南部地区環境市民会議での総括評価>

年間活動計画の計画通りにおおむね実施できた。

①高尾山への一極集中緩和を提案し八王子市側と交渉を進めてきた結果、当会が求めた案内板の設置案の予算が決まった。

②いちょう祭りのごみ分別活動は例年通り行うことができた。桑志高校1年生を対象にした事前講座や、当日の分別指導を実施した。しかし、いちょう祭りは市全体の行事でもあり、環境市民会議全体の活動として取り組めないか課題を残した。

③南浅川周辺の4町会とのコラボレーションにより南浅川の川床清掃活動、陵南グラウンドで行われた三世代フェスタ等新たな催しに積極的に参加した。

④殿入中央公園周辺の不法投棄パトロールは10回目を迎えた。近隣住民の認識も高まりつつあり評価している。

<環境推進会議の意見>

高尾山レンジャーと連携した環境パトロールや行政との意見交換を行うなど活動は実効性を高めており、素晴らしい取組である。いちょう祭りでのごみ分別指導など、地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を行うなど、地域に根ざした活動を行うことができている。また、殿入中央公園周辺の不法投棄パトロールは10回目を迎え、近隣住民の認識も高まりつつあり、高く評価できる。今後も地域の町会・自治会や他の団体と連携した活動を進め、活発な活動を継続してほしい。

<東南部地区環境市民会議での総括評価>

地道な活動の清掃は止むことなく続けることが大切だと感じた。竹林整備には一般市民の参加があり、荒れていた竹林が年々、整備されてきて成果が分かるようになった。また、竹林に啓発用の横断幕を設置し、市民へ参加の呼びかけを実施した。

<環境推進会議の意見>

町会と連携した清掃活動や、市民参加による竹林整備など、活動が広がっていることは、高く評価できる。また、東南部地区内6駅周辺のきれいさ評価を継続して行っており、ポイ捨てされるごみの種類を把握し、こうした調査結果を発信している。情報発信を継続していくことで、さらに多くの市民への意識啓発につなげてほしい。

<東部地区環境市民会議での総括評価>

定例会の毎月開催に強くこだわってきたが、8月定例会を休会とした。会員の中から猛暑中の開催に疑問を呈する意見があり、協議の結果試験的に休会とした。9月定例会で会員の反響は開催しても良かったとの感想が多かった。

全体的に高齢化が進む中、皆元気に活動継続できたことは評価に値すると思う。活動することを楽しめるように心掛けていきたい。

<環境推進会議の意見>

長池公園などでの里山保全活動や、南大沢駅前の大型花壇の維持管理などを、地域のさまざまな団体と連携して活動しており、良好な環境づくりへの貢献度は高い。また、長池公園や地域小学校で行うカイコ・シルク体験などは、「桑都八王子」の伝統を継承していく観点からも良い取組である。ウェブサイトを活用した情報の発信に積極的に取り組み、動画での情報発信も充実していることは、市民の意識向上につながり、素晴らしい取組である。引き続き活発な活動を進めてほしい。

第2節 環境保全団体等の活動紹介

■館さとやまくらぶ

1 概要

館さとやまくらぶは、市の環境施策の一環としてNPO 緑サポート八王子が実施した「里山サポーター育成講座」の修了生で構成された保全団体として、令和4年10月、館クリーンセンターが新たに開設されるのを機に発足しました。

館クリーンセンターの大きな方針の一つに「豊かな自然環境を守り、市民に親しまれる施設」があります。北側緑地は「自然観察の森」として環境学習の場、憩いやコミュニティの場をめざしています。ムササビが棲息する森、ビオトープや菜園ゾーン、カブトムシなどの繁殖エリア、遊水地レストエリア等、生態系を考慮した環境づくりを目標に活動を進めています。

現在、設立に賛同した修了生21名が、毎月第1・3日曜日に館クリーンセンター北側緑地の保全活動を行っています。活動内容は、北側緑地の観察路（遊歩道）の整備、環境学習の場作りをめざした植生調査、枯損木や陰樹の伐採・下草刈り、オオブタクサなどの外来種の駆除等です。

2 令和4年度の主な活動実績

定例活動では、発足当初は北側緑地の育成講座実習時に切り開いた観察路の階段の補修や周辺の伐採、その発生材の片付け等の作業を進めてきました。

その後、北側緑地の西エリアの陰樹の伐採、遊水地レストエリアの草刈りなどを行い、安心して散策できる環境づくりを行っています。

今後は、開かれた環境学習の場にふさわしい緑地を目標に、将来的には近隣住民参加による活動も視野に入れ、進めていきます。



館クリーンセンターの全景



観察路の階段補修



ムササビの巣箱



自然観察の森 案内板

■本田技研工業株式会社

1 概要

令和2年9月、市と上川の里特別緑地保全地区での保全活動協定を締結し、従業員とその家族ボランティアによる総合的環境保全活動として、里山の植樹・間伐、棚田の再生と稲作・畑作及び収穫物のフードバンクへの寄贈、環境教育、散策道の整備等を行っています。また、生物多様性の観点からも、この貴重な自然環境を次世代に引き継ぐための活動を行っています。里地里山を守り、育て、元気にすることで、私たち自身が健やかに豊かになることもめざしています。



里地里山保全活動

2 令和4年度の主な活動実績

(1) 里山保全活動・・・4月、11月

元気な森づくりとして、樹齢の高い木の幹を切り、切り株から伸びる新しい芽を育てることで雑木林の若返りを図る萌芽更新、間伐、上川の里のどんぐりから育てた苗木の植樹などを行いました。また、落葉を集め腐葉土作りを行っており、今後、畑作に活用する予定です。



里山保全活動

(2) 水田耕作・・・5月、9月

再生した棚田で5月に田植え、9月に稲刈りを行いました。上川の里の原風景に馴染むこともあり、稲をはさ掛けで天日干しし、脱穀、精米を行い、収穫したお米は市のフードバンクを通し、子ども食堂等に寄贈しました。



稲刈り作業

(3) 畑作・・・4月、7月、9月、11月

夏野菜と冬野菜の年2回の畑作を行い、夏野菜はトウモロコシや枝豆、冬野菜は白菜や大根の栽培を通して、野菜生産の大変さや食の大切さ、さらに食品ロスについても考える機会にしています。お米と同様に、収穫物は寄贈しています。

(4) 環境教育・・・6月、10月

人々の生活に結び付いた里山の役割について、参加者への環境教育等を通じて次世代に継承していきます。里山では樹木や植物の観察に加え、湿地内へのイノシシの侵入跡やぬた場、採餌跡等を観察し、さまざまな動植物の生息・生育場所となっていることを確認しました。一方で、散策路は動物の通り道にもなっており、斜面が荒らされている場所があるため、人の手による整備や保全が必要です。また、生物多様性調査を実施したところ、都レッドデータブックに掲載されている種が確認されており、改めて上川の里の重要性を認識しました。